こんなところに 市民憲章

1、富士山のように
たくましく働くよろこびをもち
健康な家庭をつくります

スポーツカレンダーで健康づくり

毎朝一万歩を歩く

脇田静雄さん

三百点で盾がもらえるよ

健康であることは、だれにとっても一番大切なことです。市は健康づくりのためにさまざまな施策を行っていますが、その一つとして「家族の体力・健康づくりカレンダー」をつくり、既に各家庭に配布しています。

このカレンダーは、約150キロカロリーの運動を1点として、ピラミッド型のグラフの頂上300点を目標に運動を行い、点数を記入していくものです。

伝法の脇田静雄さん（74歳）は、4・5年前から早朝散歩を始め、毎朝一万歩を歩いています。昨年度から、カレンダーに記入を始め、今では300点を4ヵ月でクリアするほどに。「自分の健康は自分でコントロールしなけりゃ」と元気満々です。

ふるさとの昔話

滝川の鎧が淵の主

原田の永明寺には不思議な話が幾つか伝わっています。今回は「永明禅寺史」から鎧が淵の主の話を紹介します。

▷鎧が淵

淵に飛び込んだ小坊主

永明寺の西側、滝川に鎧が淵というところがあります。ここは、昔、大きな淵になっていました。

昔々のことです。和尚さんが小坊主に「鎧が淵に木が覆いかぶさっている。道や墓地が暗くなるので枝を切りなさい」と命じました。

翌日、小坊主は木によじ登り山刀で枝を切っていましたが、誤って山刀を淵に落としてしまいました。怒った和尚さんは、「潜って拾ってきなさい」と言いました。

鎧が淵はとても深く、氷のように冷たい水が渦を巻いています。その上、この淵には主が住んでいる言いわれているので、小坊主はとても潜る気にはなれません。困っていると、何と水面に山刀が浮いているではありませんか。小坊主は慌てて淵に飛び込みました。

機を織っていた主

ところが、山刀は幻で、淵の底には立派な御殿があり、奥で美しい女の人が機を織っていました。

小坊主が近づくと「おまえは、山刀を拾っていかないとしかられるので返してやるが、私のことはだれにもしゃべるでないぞ。私はこの淵の主だが、おまえの山刀で織物がこんなに切れてしまった。今度、落としたら許さないぞ」と言い、山刀を返してくれました。

小坊主はお寺に帰ると、和尚さんに「三年の間、おまえはどこへ行っていた」としかられました。

主がいるから近寄るな

原田の大石隆男さん（六十六歳）は、「子供のころ、主がいるから近寄るなと言われたよ。でも、みんなで遊びに行き、高さ五メートルぐらいの淵から飛び込んだね。武士が鎧を隠したところという説もあるよ」と語ってくれました。

▷大石さん

地名の由来

森下（富士南地区）

森下村は延宝二年（一六七四年）古郡氏が加島新田開発のときにできた村です。その時点では村高は四十四石しかない村でした。

森下という名称は、水神の森の下、つまり南側にある村だからという意味です。また、森島と宮下の間にあるので、森下という説もあります。

古郡氏の開発によってできた村は、上加島地区では中島村・五味島村・水戸島村・森島村などでした。

こちら編集室

ふるさとの昔話でお話を伺った大石さんは、滝川をこと細かく案内してくれました。川辺は草に覆われ、歩く人もないので雑然としていますが、豊富なわき水には心を奪われます。清水町の柿田川湧水にも引けをとらず、考えようによっては京都の哲学の道よりすてきです。「何とか公園にならないか」で意見が一致しました。

発行・富士市役所　富士市永田町1丁目100番地　☎51－0123　人口 222,497人　男 110,442人　女 112,055人
編集・総務部広報広聴課　世帯数 64,935世帯　（8月1日現在）